

緑爽会会報 No. 201

2025年 10 月 27 日発行

日本山岳会 緑爽会

発行人 荒井正人



デザイン・制作 関塚貞亨

～～《報告》～～

創立 30 周年祝賀会報告

日時：9月18日(木) 12時～14時半

場所：四ツ谷主婦会館プラザエフ 4階シャトレの間

参加：会員 38 名と、橋本しをり 日本山岳会会長 原田智紀 常務理事 中澤温子 医療委員会委員

小林副代表の司会で開会し、冒頭荒井代表から開会挨拶があった。橋本会長にもご出席いただいたこと、その関係で医療委員会のお二人も出席されることになったこと、遠方から（一都三県以外との捉え方）7名の会員にお越しいただいたことの紹介があり、会員の65%の出席となったことに対して謝意があった。

続いて橋本会長から祝辞をいただいたが、緑爽会の発足経緯にも触れられ、これまで自然を愛し、山を文化的に探究するとの理念を実践してこられたことは日本山岳会全体にとっても大きな誇りであると語っていただいた。また現在、山岳会としては創立 120 周年記念事業の一つとして「人生 100 年時代の安全登山」をテーマにアンケートやインタビューを実施しているが、その活動の一環として医療委員会から 2 名出席しているとの説明があった。

その後、創設時からのメンバー、近藤緑さん、渡部温子さん、松本恒廣さんから一言ずつ話していただき、引き続き松本さんの乾杯発声で祝宴に入った。

会食に先だって、3月に講演をしていただいたマーティン・フッドさんから石塚さん宛てに入ったお祝いメールが披露されたが、ここに再録させていただく。

「緑爽会の創立 30 周年にあたり、スイス・チューリヒからお祝いを申し上げます。今日の祝賀会が盛会で、大成功となりますように祈ります。今年 3 月の講演会で、緑爽会の皆さまにお会いできたことは、たいまた日本に行く時に、緑爽会の皆さまにお会いできることを、楽しみに

会食の途中で、会員の皆さんから語っていただく時間を設けた。最近入会の会員は自己紹介も兼ねて一言ずつ話していただいた。最後に富澤前代表の中締めでお開きとした。その後記念写真を撮って解散となったが、神崎さんは次の予定があったこと、長沢さんは電車の時間が迫っていることから、残念ながら次葉の写真を撮った時には退席されていた。

目次

ページ

《報告》

1. 創立 30 周年祝賀会報告
荒井正人

《講演会報告》

3. 創立間もない山岳会に彩りを添えた人びと
講師：南川 金一

4. 最近のアジアの山岳界、
国際事情について
講師: 神崎 忠男

《寄稿·投稿》

5. 最高地点・三角点へのこだわり《7》
柴崎芳太郎選点の山
南川 金一

6. 高尾山健康登山を成満して 富澤 克禮

《予告など》

8. 編集後記
次号予告

当日配付したオシャレな式次第は横関さんに作っていただいた。2つ折りを開くと下のような絵柄の式次第となる。当日出席者は、この面を以って代えさせていただくこととした。



出席者（敬称略・会員番号順）

橋本しをり JAC 会長	原田智紀、医療委員会委員長	中澤温子、医療委員会
田村 佐喜子 (4801)	岡 義雄 (5253)	神崎 忠男 (6002)
河野 悠二 (7294)	松本 恒廣 (7440)	福田 光子 (7585)
近藤 緑 (8258)	吉田 理一 (8428)	里見 清子 (8618)
渡部 温子 (8831)	川嶋 新太郎 (9084)	高辻 謙輔 (9363)
平野 紀子 (9568)	森 武昭 (9620)	鳥橋 祥子 (10020)
高橋 清輝 (11139)	大島 洋子 (11470)	島田 稔 (11715)
小清水 敏昌 (11851)	長澤 洋 (12069)	辻橋 明子 (12226)
富澤 克禮 (12425)	山川 陽一 (12946)	竹中 彰 (12981)
夏原 寿一 (14234)	川口 章子 (14362)	石井 秀典 (14745)
西谷 隆亘 (14804)	西谷 可江 (14934)	石塚 嘉一 (15147)
中村 好至恵 (15166)	有岡 純子 (15361)	荒井 正人 (15379)
横関 邦子 (15494)	小原 茂延 (15585)	小林 敏博 (15938)
山内 通 (16873)	小部 正治 (17222)	



（報告：荒井正人、写真：石塚嘉一）

お詫び・・・ 記念号、あゆみ、総目次に多くの誤りや編集ミスがありました。お詫び申し上げます。

記念号の配付前に判明していた間違いは送付状に訂正を書かせていただきましたが、席上で、近藤緑さんから間違いをご指摘いただいたこともあり（下記の誤りです）、他にも編集ミスなどがないか、確認をしております。今わかっている部分ですが、以下の通り訂正させていただきます。なお、会報 138 号～200 号も合本にする予定ですが、図書室に納本する時には、修正をして収蔵致します。また、今後気づいた間違いは会報でお知らせしていきます。お気づきの点がありましたら、荒井までお知らせ願います。

【記念号】

- 10 ページ 近藤さんの下から 5 行目、「19 歳の私」は「16 歳の私」が正当です。
- 27 ページ 夏原さんの 10 行目、この後に「2002 年 12 月に入会」が漏れていました。
- 30 ページ 西谷さんの 16 行目「東京都分水嶺踏査」は「東京都分境嶺踏査」が正当です。

30 ページ 西谷さんの下から7行目の俳句で「冬紅葉」は「冬黄葉」が正当でした。

39 ページ 小林敏博さんの6行目、「渡部温子」さんのお名前が「渡辺」と間違っていました。

【緑爽会のあゆみ】

25 ページ 11月の奥多摩の係、「石井秀典」さんのお名前が「秀則」と間違っていました。

26、27 ページの「さがみこベリー・ガーデン」は「さがみこベリーガーデン」が正当です。

【会報総目次】 現在確認中ですが、判明している分です

14 ページ 163号で「緑爽会発足25年目を来年に控えて」「戦争末期の尾瀬と上高地（前）」がダブって記載されていました。

その他、会報の本来のタイトルと表記が異なっている、講演会の講師名が漏れている、といった分かりにくく、不親切なところがあり、修正を行います。

《講演会報告》

創立間もない山岳会に彩りを添えた人びと

講師：南川 金一会員

開催日：9月25日（木）13時半～16時半 会場：ルーム104号室

参加者：19名（緑爽会会員13名 その他6名）出席者名は次号

この10月14日に、日本山岳会は創立120周年を迎えた。1905年に7人の発起人によって生まれたことは多くの会員が知っていると思うが、では創立の経緯や発起人の名前、草創期の活動の実態などについてはどうであろうか。『日本山岳会百年史』の編集に携わった南川金一会員は、その中で次の2つについて執筆されているほか、『山岳』でも創立間もない時代の会員動向などについて調査し、まとめてこられた。今回は、その長年に亘っての調査から分かったこと、意外な事実などを語っていただくこととした。120周年という年回りに、こうした時代の状況を知ることは意義深いことであると思う。

・百年史：本編185ページ 「創期会員名簿」に見る創立間もない山岳会

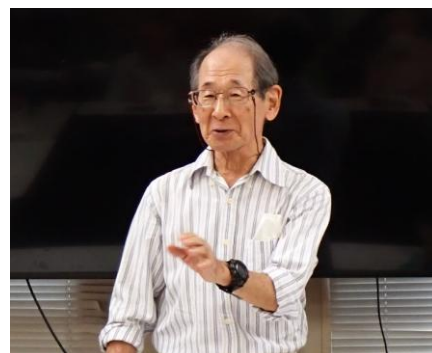
資料編A169ページ 日本山岳会「創期会員名簿」登載者

・『山岳』：2002年Vol.97「創立間もない山岳会を盛り立てた人々」その続編は2004年

講演の内容は、次号で、南川さんご自身に書いていただくことにしており、ここでは、大まかな講演の流れなどをお知らせすることとした。

はじめに配布された資料の説明があった。（手元に無いと分かりにくいと思いますが、請求いただければお送りします）

まずは百年史編纂に当たって「100年間の会員の流れ」解説の裏付けのために作成された100周年までの入会者14237名分の入会年月、名前、生年月日等の基本項目をエクセルでまとめたリストである。松田雄一さんが大変な労力をかけて作ったものだ。この過程で会員番号の無い会員がいることに気づいたというが、それが何人かも不明であった。大正9年に初めて名簿が作成された時に会員番号が振られており、それ以前の入会者には会員番号が無かったのだ。それを調べて明治時代の入会者には「M」、大正の入会者には「T」を付けている。その会員数645名。その後、『山岳』の追悼文などから各会員の職業や紹介者等徐々に判明した項目が増えて今の形になっている。こうしてプリントを配付するのは初めてで、貴重なデータである。（もちろん全員分ではなく6ページ分が配付された）



次に、明治 42 年発行の住所が入った名簿の写し。『山岳』第 2 年 1 号の付録だが、現在図書室から無くなっている。ほぼ入会順に並んでいて住所と共に重要な情報である。

「明治 33 年の教育制度」「東京帝大を卒業した会員一覧」も配付されたが、これは当時の会員には高学歴者が多かったことを解説された資料である。

それと南川さんの講演メモ。発起人一人一人の個性や、入会勸奨に努力していった過程などが詳しく書かれている。入会者には島崎藤村など、のちに著名人となる会員が多数いるが、その入会の動機や経緯を、様々な情報から探っていくことは推理も働かせて調べて行く気の遠くなる作業でもある。こうした中から判明した意外な、興味の湧く話が 3 時間近く語られた。以下次号掲載。

《講演会報告》

最近のアジアの山岳界、国際事情について

講師：神崎 忠男会員

開催日：10 月 18 日（土）13 時半～16 時 会場：ルーム 104 号室

参加者：34 名（緑爽会会員 15 名 その他 19 名）出席者名は次号

日本山岳会は創立 120 周年を迎えた。12 月の年次晚餐会には海外の山岳関係者も招待することになっている。先月は韓国山岳会の創立 80 周年記念式典があつて橋本会長も出席された。

その前の 6 月にはアジア山岳連盟の総会がモンゴルで開催され、さらにその前には韓国ツアーが行われ、アルピニズムクラブ、緑爽会会員も多数参加している。これらは神崎会員の人脈に依るところが大きい、日本山岳会として、そういった中で、海外の山岳会との交流はどうあるのが望ましいのかといった視点から、アルピニズムクラブとの共催という形で講演会を開催した。

講演には春に百歳を迎えられた関塚会員も出席され、紹介されると帽子に手をかざして「ありがとう」と元気に応えられた。

冒頭、モンゴルでのアジア山岳連盟総会とその旅、および以前のモンゴル草原ツアーの映像を視聴した。

その後は配付された 40 ページにも及ぶ資料に基いて世界の山岳界の歴史を振り返り、日本山岳会の海外遠征、ヒマラヤの歴史、日本山岳協会や HAT-J などの歴史をおさらいした。

「国際交流」というと硬く感じるが、若手の海外遠征に助成もしているし、海外トレッキングに行く会員も多い中で、日本山岳会としてもそれなりの役割を果たしていくのが望ましいと思うが、組織の問題などもあつて中々簡単にはいかないことを学んだ。

最後に、120 周年記念式典、年次晚餐会に海外からの招待客を迎えるにあたり、翌日のエクスカージョン（高尾山）には、国際親善、友好の機会としてとらえ、アルピニズムクラブとして協力したいとの提案があり、資料説明で締めくくられた。

【関係資料を同封し、追って正式に決まり次第詳細、連絡方法などをお知らせします】

（上記講演会報告は共に報告：荒井正人、写真：石塚嘉一）



柴崎芳太郎選点の山

南川 金一

北アルプスの仙人池ヒュッテ裏手にある 2173・1m 三角点は点名「西仙人」である。国土地理院の地形図上では無名峰であるが、南仙人山と呼ばれている。南仙人山の頂上に着いてみると、三角点標石の周囲の笹が刈ってあり、お陰で標石がすぐに分かった。この頂上に登りに来るだけでも珍しいのに、笹を刈ってあるとは、と不思議に思ったものである。

その答えは、山岳会図書室に来ていた、日本地図センター広報誌『地図中心』の2007年6月号にあった。国土地理院は、柴崎芳太郎（1876～1938）が測量のため劔岳に登って100年になるのを記念して、劔岳に三角点を設置することと、柴崎芳太郎が設置した劔岳周辺の3等三角点の現況調査を行ったとして、その報告記事が載っていた。それによると柴崎芳太郎は、劔岳周辺で、1等点「立山」（地形図の雄山）、2等点「大窓」（同白ハゲ）、3等点は26点を選点・測量している。現況調査は3等点を対象とし、登山者も立ち入らないような困難な箇所12点は除外し、残りの14点を調査した。その1つが「西仙人」だった。

また、そのことは山田明著『劔岳に三角点を！』（2007 年、桂書房）にも詳しい。著者は国土地理院北陸地方測量部にあって、劔岳に三角点を設置・観測する作業を企画、陣頭指揮した。

国土地理院は劔岳頂上に 3 等点を設置後、三角点の標高と劔岳の最高地点の標高観測を行った。三角点の標高観測は GPS により、「別山」(劔御前、2776・58m)、「西千人」(南千人山、2173・12m)と劔岳の三角点網を組み、同時に観測を行った。GPS 観測機を南千人山にも上げ、三角点上に設置して観測する作業のために、標石の周囲の笹を刈ったことが判明した。得られたデータから、劔岳に新設した 3 等点の標高を 2991・1m と算出。また、三角点から南西に 13m 離れた露岩(頂上の祠の裏)を劔岳の最高地点と見て、三角点からの水準儀と標尺による水準測量により 2999m と算出した。

登るのが難しいとして、国土地理院が調査対象から除外した「西千人ノ高」（地形図の坊主山）、「倉ノ助」（同黒部別山北峰）、「倉ノ助 2」（同黒部別山南峰）、「木引谷」（同木挽山）等には、私は無雪期に登った。猛烈な藪を突破して、頂上にひっそりとある三角点標石を目にした時は少なからぬ感動を覚えた。それだけに、選点・設置・観測時の困難の一端を窺い知ることができた。

柴崎芳太郎による劔岳周辺の 3 等点 26 点の選点はすべて 1907 年である。雪が消えるのを待って山へ入り、選点とする山を決めるために、周囲の山にも登った。劔岳もその一つだった。ひとたび山へ入ると、雪が来るまで山に入りっぱなしだった。

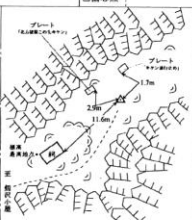
新設された 3 等点「劔岳」の「点の記」は、選点日を柴崎芳太郎が劔岳に登った明治 40 年 7 月 13 日とし、選点者は柴崎芳太郎としている。〔このシリーズ終り〕

三等三角点の記		高標点コード 5437-74-4901	
ふりがな	つるぎの	1/20万図名	三角測量図簿 (部号)
点 名	鯉 井	高山	立 山 第 537 部
国土地院番号	茨 第 27号	設置 区分	地上 (保護0.0m)
標 高 等 号	植 木 新	一 号	往 不 養 0.79m
所 在 地	富山県中新川郡立山町芦崎寺 プナ坂外11国有林124イ林小組		地 目 山林
所 有 者	森林水産省 (管理者) 富山森林管理署		
測 点	明治40年 7月13日	測 点 者	安岡 寿太郎
設 置 展	平成16年 8月24日	設 置 者	伊藤 純一
観 測	平成16年 8月25日	観 測 者	山中 徳之
自動車到達地点	室堂ターミナル		
歩 達 状 況	登山道		
徒歩時間 (距離)	8時間 (約7km) 〇 麓小泉より約4時間30分 (約3km)		
三角点周囲の状況	枕山山頂		
標 高 (1)			
標 高 (2)			
備 考	平成16年 8月24日 新設	GPS測量	アンテナ高
	立山町料所道路 (立山駅～室堂ターミナル) は一般車通行不可	〇 本点	1.408
		〇 口点	

実測 1/5万



富山県立山町
室堂ターミナル



富山県立山町
室堂ターミナル

新設した劔岳の三角点の「点の記」

高尾山健康登山を成満して

富澤 克禮

● 高尾山健康登山、100 冊成満山行

緑爽会創立 30 周年記念の式典が挙行された令和 7 (2025) 年 9 月 18 日の 3 日後の 9 月 21 日に、平成 24 (2012) 年 8 月 19 日から始めた高尾山健康登山を成満しました。294 番目の成満者です。13 年 1 か月 2 日をかけて、ようやく達成したものです。

「成満の日がわかれば、お祝いで、皆と一緒に登りたいと思うのですが」という荒井代表からのメールを真に受けて、前日の 9 月 20 日に最後の登山の予定を連絡するという慌ただしい中にも拘わらず、荒井さん、鳥橋さん、横関さんの三人にご一緒いただきました。

高尾山口駅を出発、琵琶滝～二本松～十一丁目茶屋～男坂～仏舍利塔のコースをツルニンジン、ツルギキョウ、カリガネソウ、ハダカホウズキの等の花や実、カゴノキ等の樹木を観察しながらゆっくりしたペースで登りました。男坂から仏舍利塔へ出て、ここで昼食をとり、薬王院に。本堂に参拝の後、「高尾山健康登山の証」の百冊目の第二十一度に押印をいただき第百冊、2,100 回を成満しました。下山後は、高尾駅近くのなじみの店で、三人からお祝いの宴を開いていただきました。素晴らしい、充実した一日でした。

● 高尾山健康登山と百冊成満セレモニー

1 冊が 21 回の登山で 1 冊満行、これを百冊、即ち、2,100 回で、高尾山健康登山の成満となります。年間 300 日登ったとしても、7 年間かかります。

高尾山薬王院で発行している「高尾山報」令和 6 年 12 月号に【『高尾山健康登山の証』のお勧め】という記事がありますので、ご紹介します。「登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では、約五万人の方々が参加されております。期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。また、一冊につき二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います」。

何故、一冊が二十一回かは、薬王院の御本尊の飯縄大権現の御縁日が二十一日であることが由来と聞いております。小生の成満の日が 9 月 21 日であるのも、ちょっとこだわった結果です。更に、成満者のうち希望する者には、翌月の 21 日に百冊成満セレモニーとして大本堂にて「御護摩修行」を行い、その後、記念撮影や記念品の授与等があり、神変堂と薬王院境内の健康登山の押印・御朱印所への名札の掲示がされます。

10 月 21 日には、しばしば高尾山と一緒に歩いてくれた長女と共に、このセレモニーに参加しました。本堂で厳粛な「御護摩修行」を受けて、改めて、百冊成満の実感が湧いてきました。

● 百冊成満までの経緯

【1～50 冊満行までに 9 年 5 か月かかる】

健康登山の帳面を作ったものの、最初の 1～2 冊は、8～9 か月かかって漸く 1 冊満行というありさまでした。百冊成満などは、全く頭になく、ただ、高尾山に行ったついでに、スタンプを押してもらっていただけです。



高尾山への山行が増えた要因の一つに、JACでの、平成29年（2017）年12月25日から実施された個人山行を含むすべての山行の登山届の義務化があります。それまでは、気軽に、天気やその日の気分で、大菩薩連嶺、中央線沿線の山々に行っていましたが、それが出来なくなり、その代わりに、高尾山に足が向く機会が増えました。

また、令和2（2020）年の3月頃からの、コロナ禍も「人混みはダメだけど、山なら大丈夫」ということで、高尾山に足を運ぶ口実になりました。

高尾山の植物の豊富さに魅せられたことも、もう一つの重要な要因になっております。高尾山の植物は、本当に素晴らしいです。また、植物愛好家の仲間たちとの交遊も楽しいものでした。

やがて、「時間があれば高尾山に行かなければ、」という気持ちになって来ました。どうやら、高尾山病に罹ったようです。高尾山への山行日数は、令和2（2020）年は**210**日、令和3（2021）年は**272**日と大幅に増加しました。令和4（2019）年1月には、9年5か月かかって、ようやく50冊が満行しました。



【50～100冊成満までに3年6か月かかる】

50冊を超えた頃からは、百冊成満した人や間もなく成満する人にお会いして話を聞くと、「最低、毎月1冊（21日）を達成することを目標としていた」とのことですので、これを意識するようになりました。すなわち年間、 $21 \text{日} \times 12 \text{月} = 252 \text{日}$ を最低目標としました。これが出来れば、計算上は87歳になる令和7（2025）年10月頃迄には、百冊成満ができることがわかりました。

令和4（2022）年は**297**日、令和5（2023）年は**306**日、令和6（2024）年は**273**日、令和7（2025）年9月迄は**189**日、この数年間は目標の252日を上回ることが出来、当初予定した10月より1か月ほど早く達成することが出来ました。

● 健康登山の難しさ

高尾山健康登山百冊成満は、特別な技術や優れた体力が必要ではないので、それほど難しいことではありません。誰でも挑戦出来て、誰でも達成可能だと思われます。私にとって、この健康登山の一番難しかったことは、時間をつくることでした。そんなことで、回数を稼ぐ為には、午後からの集まりや用事があるときは、ケーブルカーで薬王院までを往復することも、しばしばでした。それでも出発から帰宅までには、4時間かかります。百冊成満の為には膨大な時間を使ったことになります。

● 高尾山健康登山の効用

高尾山健康登山は、健康を維持し増進する為には素晴らしい効用が認められます。

小生の場合、始めてから百冊成満までの13年間、大きな病気もせず、膝や腰の痛みも出ず、ほとんど毎月歩き続けられたのも、この健康登山のお蔭だと思っております。

百冊成満の9月21日以降は、他の用事で忙しくて高尾山に行く時間が少なくなっております。この1か月で5回しか行っておりません。すると、足にむくみが出て、体調が芳しくありません。高尾に行った当日や翌日は体調がよく足のむくみも無くなります。

この事実から、高尾山健康登山をやっていたから毎日のように歩くことが習慣になり、健康が維持できたと言えるようです。

因みに、スマホの歩数計では、数か月前までは年間1日の平均で15,000歩を超えていましたが、

今では、12,700 歩と激減しています。気になる数字です。

● 今後について

これからは、薬王院に行ってスタンプを押してもらおうという義務感から解放されたので、好きな植物の観察を中心に、日影林道や木下沢林道、高尾山周辺の公園を歩きたいと思っております。

それにしても、最近、ケーブルカー周辺や1号路にまでシカが目撃されております。高尾の貴重な植物が、シカの食害により、少なくなっていくのが心配です。また、最近の異常気象により、花の咲き方等に変化がみられるように思われます。心配なことです。

～～《予告など》～～

今後の予定:12月に忘年会を行おうと考えています。追ってお知らせいたします。また、1月は恒例となりました七福神巡りを予定しています。今回は下谷七福神ですが、これも追って日程をお知らせいたします。

会員異動(住所などの変更) お手元の名簿を修正願います

・島田稔会員

・石塚嘉一会員

中村好至恵さんの個展情報は、会報「山」10月号に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

会期は11月10日～16日 会場は横浜関内の「みつい画廊」です。

編集後記

例年より遅く金木犀が咲いた。今年は当たり年なのか、どの木も見事だ。鼻が悪い私でも十分に香りを楽しんだ。でも冷たい雨で早くも散り始め、「花の命は短くて」を痛感する。こうして暑く長かった夏もすぐに忘れてしまう。祝賀会から40日。この間2回の講演会もあったが、書くことで忘れないようにしたい。(荒井正人)

所用で信州に出かけたところ、紅葉の盛りにはもう1週間から10日ほど必要と思われるのに、最低気温がなんと1℃でした。あの長く酷い暑さの夏が懐かしいくらいでしたが、よく言われている日本は四季がなくなり二季になるかもしれないという話が実感として理解できたように思いました。(小林敏博)

先月の南川さんの講演は、いつもの連載記事と同様に、膨大な資料から探し出された、初めて聞くようなことが満載でした。熱演で時間をかなりオーバーしてもまだ話し足りない、聞き足りない感じだった。次号での詳細報告が楽しみだ。それにしても参加者が少なかったのは、30周年祝賀会疲れのせいかな、もったいなかった。(石塚嘉一)

富澤さんの素晴らしい高尾山健康登山の百冊成満の時に一緒にさせていただきました。高尾山口で集まり、琵琶滝経由でいつものように普通に登山を始めました。富澤さんが確認し、見てみたい花があるということでその花を探し、言われないと気が付かない小さい可憐な花々を観察し、写真を撮りながらゆっくりと歩きました。お昼を食べ、最後に薬王院に行き2100個目のスタンプを押す場面に同行させていただきました。素晴らしい一瞬でした。薬王院の皆様が「おめでとうございます」とニコニコしながら祝福してくださる中、富澤さんはいつものように普通の感じで手続きの書類に記入していらっやいました。同行した私にとっては胸にグッとくるものがあり、感激の時でした。自分では到底達成できないことですので、このような場面にいられたことは、忘れないでしょう。富澤さん、本当におめでとうございます。(横関邦子)

次号予告<12月25日発行予定の主な内容> 皆様からの投稿をお待ちしています

10月山行報告、南川さんの講演会詳細内容、その他寄稿・投稿など